

「愛岐トンネル群」を熱写

多治見 保存再生委員会が出展



赤れんが造りのトンネルや周辺の豊かな自然を撮影した写真が並ぶ会場＝多治見市陶元町の養正公民館で

多治見市と愛知県春日井市を結ぶ旧国鉄中央線の「愛岐トンネル群」をテーマにした写真展が二十七日まで、

多治見市陶元町の養正公民館で開かれている。入場無料。両市民でつくるトンネル群保存再生委員会

が企画。会員が撮影した約百点を展示し、赤れんが造りのトンネル内部や、周辺を舞うチヨウ「モンキアゲハ」「アサギマダラ」が紹介されている。

トンネルは一九〇〇（明治三十三）年、名古屋―多治見間が開通する際に完成。六六（昭和四十一）年の廃線後、放置されていた。委員会は地元の文化財を守ろうと二〇〇七年に結成された。百三人が加盟し、トンネル内部や散策道の

整備に取り組んでい

る。会員の多治見市明和町、福本精一さん（六五）は「地元立派な産業遺産があることを知ってほしい」と話す。

トンネルは普段閉鎖されているが、二十七日から五月一日に一般に公開される。各日も午前十時から午後三時。事前申し込みは不要で、保険料百円が必要。問い合わせは、委員会＝電080（94,92）5458へ。（中川耕平）